

# 二〇二三年度B方式入学試験問題 一 時限目 国 語

二月七日

## 注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで問題冊子を開かないこと。
- 二、監督者の指示に従い、別紙解答用紙の所定欄に氏名、受験番号を記入すること。さらに受験番号の下のマーク欄に受験番号をマークすること。
- 三、解答はすべて、解答用紙の解答欄にマークすること。
- 四、試験時間は六十分、問題は15ページ。

## マーク記入上の注意

- (1) 解答欄にマークするときは、HBの黒鉛筆でつぎの正しい例のように濃く正確にぬりつぶすこと。解答は、該当の解答番号の解答欄にマークすること。例えば、解答番号 10 の問に対して、
- (2) と解答する場合は

10
①
●
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩

のようにマークすること。

## 悪い例

5	4	3	2	1
①	①	①	①	①
●	①	②	②	②
●	③	③	③	③
④	④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
⑨	⑨	⑨	⑨	⑨
⑩	⑩	⑩	⑩	⑩

- 印でかこむ。
- 中身をぬりつぶしていない。
- レ印をつける。
- 一印をつける。
- 一欄に二つ以上マークする。

このような記入をしてはいけない。

- (3) 一度記入したマークを訂正する場合は、消しゴムで完全に消してから記入しなおすこと。
- |   |
|---|
| 1 |
| ① |
| ● |
| ④ |
| ⑤ |
| ⑨ |
| ⑩ |
- のように×印をしても消したことになる。
- (4) 解答用紙を折りまげたり、破ったり、また汚したりしないこと。

第一問 左は、好井裕明『他者を感じる社会学』の一節である（ただし、一部改変した）。これを読んで、後の問いに答えよ。

外見とはどのようなことを意味するのでしょうか。字義通り考えれば、「外」から見える人の姿ということでしょうか。「外見を気にする」とは、まさに見た目で判断される自分の姿、自分への評価に敏感になるということです。誰がどのように考えようと自分は自分だとも言えますが、そう簡単なことでもなく、私たちは常に「他者からの視線」に対抗する「術」を考え、実践しているのです。そして私たちが日常の差別や排除を考えるとき、外見という問題もまた重要な手がかりです。

ゼミの男子学生が髭ひげをテーマに卒業論文を書きました。内容は日本や西洋における髭の社会史をまとめたものですが、彼にとって卒論は自分の髭への「⑦チン魂歌⑦」でした。彼は、ゼミにはよく手入れされた黒々とした髭を蓄えて現れました。ゼミだけでなく大学の日常も髭を蓄えた姿は特に違和感もなく、何の支障もなく彼は過ごしていました。しかし、大学を卒業し社会人となるタイミングで、彼は見事な髭に別れを告げなければならなかったのです。企業の就職面接で彼は卒業論文のことを聞かれ、髭に対する問題関心を語り、髭が持っていた社会的意義なども語ったのだと思います。彼は内定をとり、採用されました。彼の人物を評価し、大学での社会学の学びや卒業論文の内容などが良かったからこそ、採用されたのだと、私は思います。ただ、彼曰く、最後に面接を担当していた人から「うちの会社に来ることになったら、髭はきれいに剃そってくださいね」と A そうです。

髭をたくわえているからといって、それだけでその人物の人間性や能力などはわからないでしょう。髭のあるなしで、その人物を理解しきることなどできないはずですよ。では、なぜ彼は髭をきれいに剃ってくださいと注意されたのでしょうか。

うちの会社に勤めるとすれば、それはふさわしくない。企業を構成する一員になるのだから、企業イメージに①ティ触①しないように外見も整えるべきだ。お客様に不快な印象をあたえてしまう危険性がある。うちの会社は食品を扱っているのだから、常に清潔感が社員には必須だなど、さまざまな「理由」が考えられるでしょう。ただ「理由」のいずれをとつても、髭をはやしていることが、人間としてダメな証拠であり、②欠カン②がある証拠だといった私たちの「内実」に言及するものにはなっていません。

髭を例にとつて、少しお話ししましたが、こうした「理由」が意味を持つ背景には、私たちが日常さまざまな場面で他者とやりとりする場合、外見を重要な手がかりとして、他者を判断しているという事実があるからです。日常生活世界を解読した社会学者A・シュッツによれば、私たちは普段「類型」に準拠して他者を理解し、「類型」は私たちがそれまで蓄積してきた「知識在庫」に依存しています。たとえば先の男子学生が卒業して社会に出ると「サラリーマン」となります。「サラリーマン」という「類型」は、アイロンが効いたしわのないワイシャツに興味のいいネクタイを締め、落ち着いた色のスーツを着て、にこやかにお客様に対応するといった実際の場面に即応した常識的知から構成され、そのほとんどが外見、見た目に関連したものと云えます。より外見に徹底した「類型」といえば、「就活する大学生」を思い出します。個々の学生がどのような人間性を持ち、どのような思想をもっているのかなど、「内実」に一切関わりなく、**B**に身を固め、清潔な髪形に整えた瞬間、彼らは「就活する大学生」に変身してしまいます。

人間は外見や見かけではなく、その中身が大事だ、という考えを否定する人はまずいでしょう。そうでありながら同時に私たちは普段、いちいち目の前にいる他者の「ななみ」や「ところ」を気にして、生きているわけではありません。他者の「内実」ではなく、他者の「外見」をもとにして、その場その時に応じて、目の前の相手が何者であり、どのように対応すれば適切であるかを瞬時のうちに判断し、実践しているのです。だからこそ、外見を考えることは、日常における他者との出会いや他者理解を考えるうえで、とても重要な営みだと言えるでしょう。「**C**外見、されど外見」なのです。

「されど外見」を考えるとき、私たちは普段、他者とどのように向きあっているのかをじっくりと見つめる必要があります。そしてこれは、ゴフマンという一風変わった社会学者が生涯テーマとした「共在Ⅱ他者とともに在ること」を考え、そのありようを解読する営みと密接に関連しています。ゴフマンは、人間が他者と共にいる営みや複数の人間からできる集まりには、それ自体固有の秩序がつけられ維持されているという事実を明らかにしています。「相互行為秩序 (the interaction order)」というものです。

たとえば、私たちは電車に乗っている時に、どのような秩序を維持しながら過ごしているのでしょうか。私がまず思いつくのは「他者はじつとみつめない」というルールです。どんなに目の前の座席に座っている人が魅力的であろうと私はその人をじつと見つめたりはしません。でもやはり気になる時は、その人だけを注視するのではなく、他の光景も眺めているふりをしながら、それとなく見るでしょう。ゴフマンの言葉を借りれば、それは「焦点をあわせない (unfocused)」見方であり、こうした秩序が維持されているのは「焦点をあわせない人々の集まり」であり、電車のような公共的な空間で典型的に見られる現象です。つまり私に限らず乗り合わせた多くの人は、電車の中では、特定の誰かに焦点をあわせないで、焦点をぼかしながら、周囲の乗客の姿や様子を見るときも見ています。

さらに言えば私たちは、他の乗客との「距離」を絶妙に保ちながら、自分の場所を維持しつつスマホに熱中したり音楽を聴いたり本を読んだりしています。ゴフマンに言わせれば、新聞や週刊誌や本は、他者との「距離」をとり、「距離」を保っていること、言い換えれば自分は他者に対して関心はないし、他者という存在へ関与するつもりもないことを周囲の他者に表示するための「道具」なのです。もちろん今はスマホこそ最適な「道具」です。

ただこうした視線の取り方や「道具」が通常に機能して電車内の秩序が維持されるとしても、それが危うくなる状況はいくらでも起こり得ます。

満員電車に乗って、私はいつも気になり、どうしようか困ってしまうことがあります。それは隣に立っている人や席に座っている人が熱中するスマホの画面が「見えてしまう」ことです。見たくなければ目を閉じればいいだけですが、満員で身動きもままならないとき、目を閉じ続けると不安定な状態になるし、さりとて他に視線を移そうとすれば、そこでも別のスマホの画面が見えてしまいます。見たくもないものが、まさに「見えてしまう」のです。

でもなぜ私は困ってしまうのでしょうか。先に述べたようにスマホは使用している人にとって、満員電車という人間が充満した異様な空間で、自分の世界に閉じこもることができる有効な道具です。それは同時に他者に対して関心もないし関与もしないことを示す道具でもあります。イヤホンで音楽を聴き、スマホの画面に目を落としてゲームやLINEのやりとりに集中してい

る姿。それは周囲の世界や外界に対して耳も目も遮断し、自分だけの世界に集中している姿を周囲に表示していることになりま  
す。「**E**」と書いたのは、もちろんスマホに熱中するとしても、その人は完全に他の乗客や外界の音や様子を遮断し  
ているのではなく、聞こうと思えば聞けるし、見ようと思えば見えるからであり、そうした外界との繋がり方を意味しています。  
さきほど電車内で人々が適切に「距離」を保つことが電車の秩序にとって重要だと述べましたが、満員電車のように「距離」  
すら保つことが困難な場合、私たちはどのようにして自分を守り、自分と他者との繋がりを維持しようとするのでしょうか。ゴ  
フマンの発想を借りて、私はこう考えます。

<sup>F</sup> 私たちは、自分を守る「膜」とでもいえるものを持っています。それは状況によって堅牢な「殻」となるかもしれませんが、  
薄く、破れやすく、誰の目にも見えない透明な「膜」です。そして満員電車のように人間が過<sup>±</sup>ジョウに密集してしまうとき、当  
然「距離」の維持は難しく、さらに「膜」さえもお互いに触れ合い、擦りあわせることで、破れてしまう危険に私たちはさらさ  
れます。そのような状態のなか、私たちは、スマホなど使える「道具」<sup>⊕</sup>をク<sup>⊕</sup>使して、互いの「膜」を破る危険を回避できるよう  
な細心の注意を払っているのです。

私が困ってしまうのは、隣の他者の「膜」をなんとか破らないように注意を払い、その場でいろいろとふるまっても、「膜」  
の向こうにある他者の世界が「見えてしまう」からです。LINEのやりとりや個人で検索している情報やゲームの様子など、  
別に私は見たくありません。結果として隣の人が懸命に維持しようとしている「自分だけの世界」を「侵犯」してしまう危うさ  
を感じるからなのです。

自分の「膜」を守りつつ、他者の「膜」つまり、他者の私的世界を侵犯しないこと。これこそ、私たちが日常しっかりと守っ  
ている最大の儀礼<sup>エチケット</sup>と言えるでしょう。そしてこの儀礼を行使することに外見が密接に関連しています。

自分の「膜」を守りつつ、他者の「膜」つまり、他者の私的世界を侵犯しないという儀礼は、さらに私たちがその場その時に  
応じて適切に自分の「外見」を整えることで達成されます。

たとえば私は、電車で空いている席を見つけると、座る前に必ず「すみません」と両側に座っている人に声をかけるか片手を少し前に出して「これから私がそこに座りますよ」という意思表示をします。両側の人のコートや上着の裾を尻で踏まないように気をつけながら座り、リュックは両腕で覆うようにして抱え、膝の上でしっかりと安定させます。ここまですれば、自分の「膜」はしっかりと守れるし、両側の人の「膜」にも触れないし、私の世界にも「侵犯」する危険性はなく、ほぼ完璧な「乗客としての外見」を私はつくりあげることができます。そしてこうした外見をつくりあげた後で、今日の講義で使えそうな面白いネタはないかと、どこに焦点をあわせることもなく、乗客の様子を細かく観察しています。

<sup>G</sup> 状況に応じて必要だとされる外見を整えること。この営みは、ほとんど誰もが逃れえないものと言えるでしょう。でもなぜそのような営みを私たちはしてしまうのでしょうか。これもゴフマンから得た私の知識ですが、私<sup>H</sup>たちは常に自分の姿をめぐりその場その時の状況に適合するように印象操作しています。それはただ姿かたちという

I1 的なことだけではありません。自分自身がどのような存在であるかを相手にわからせようとする自分の中身にまで関わっていく印象操作という営みです。

たとえば私は大学で常にジーンズとシャツやセーターといった姿で授業やゼミをし、会議に出ます。なぜそのような姿でいるのかを深く考えたことはありませんが、やはりこれまで出会ってきた社会学の先輩である多くの先生の姿が影響していると思います。大学とは学問研究の自由が確保される空間であり、

I2 的な慣習や秩序からも一定自由な空間です。大学の先生だから先生らしい格好をしなさいと指導教員から「指導」されたこともありません。おそらくは自分の社会学を「自分らしく」教え伝えるうえでもっとも気持ちがいい印象操作をしようとする結果、そのような姿となっているのでしょう。外見を考えるうえで、重要な手がかりは「自分らしさ」です。

いずれにしても、私たちは表現したい自分の姿があり、それをうまく伝えることができるよう、化粧やファッション、身体加工などいろいろと工夫し、自らの外見を整えながら生きています。またすでにおわかりのように、私は「外見」という言葉を単に衣装や化粧などで自分の顔や身体を

I3 的に整える営みだけを含めているわけではありません。そうした営みだけでなく、さまざまな状況で、その場を構成するメンバーとして「適切に」ふるまうための「処方箋的な知」やふるまい方も含め

ています。なぜなら私たちの多くは、自分の I 4 性や内実などと関係なく、その場の秩序にあわせ 適切に ふるまうことができるからです。

問1 空欄Aに入る語として、最も適切なものを次から選べ。 1

- ① 警笛を鳴らされた
- ② 杭を打たれた
- ③ 釘を刺された
- ④ 水を差された
- ⑤ 秋波を送られた

問2 空欄Bに入る語として、最も適切なものを次から選べ。 2

- ① 晴れ着
- ② 就活スーツ
- ③ 自分らしさ
- ④ ブランド物
- ⑤ 本格的

問3 空欄Cに入る語として、最も適切なものを次から選べ。

3

① やはり

② とはいえ

③ しかし

④ たかが

⑤ それでも

問4 傍線部Dとは、どういうことか。最も適切なものを次から選べ。

4

① 新聞や週刊誌や本と異なり簡単に熱中できること

② 車内でも簡単に操作でき、待ち時間や暇つぶしに使えること

③ 自分の世界に閉じこもっていることを周囲に示せること

④ 鏡替わりに使うことで、外見を整えられること

⑤ カーナビのように目的地に着く時間や道順をアプリで確認できること

問5 空欄Eに入る語として、最も適切なものを次から選べ。

5

① 閉じこもる

② 集中する

③ 目を落とす

④ 表示する

⑤ 困ってしまう

問6 傍線部Fとは、どういうことか。最も適切なものを次から選べ。

6

- ① お互いがお互いを見ないように自分の世界に閉じこもれること
- ② どんなに注意を払っても、他者の私的世界が「見えてしまう」こと
- ③ イヤホンで音楽を聴き、スマホの画面に目を落としてゲームすることで、お互い目に見えない状況になっていること
- ④ 自分と他者との繋がりを維持するために、お互いに破れるような「膜」を形成していること
- ⑤ 満員で身動きもままならず、目を閉じ続けると不安定な状態になること

問7 傍線部Gは何のためになされるのか。最も適切なものを次から選べ。

7

- ① 満員電車のような「距離」を保つことが困難な空間を組織的に作らないようにするため
- ② 人間が充満した異様な空間において、他者から不快に思われないように清潔にするため
- ③ 公共の場である電車の中で、化粧やおしゃれを楽しむため
- ④ 外見ではなく他者のほんとうの「なかみ」や「ところ」を気にするため
- ⑤ 自分の「膜」を守るだけでなく、他者の私的世界を侵犯しないと意思表示するため

問8 傍線部Hを表す語として、最も適切なものを次から選べ。

8

- ① 相互行為秩序
- ② 常識的知
- ③ 知識在庫
- ④ 処方箋的な知
- ⑤ 私的世界を侵犯しないという儀礼

問9 空欄I 1からI 4に入る語の組み合わせとして、最も適切なものを次から選べ。

9

	I 1	I 2	I 3	I 4
①	外形	表層	世間	感受
②	世間	表層	外形	人間
③	世間	外形	表層	感受
④	外形	世間	表層	人間
⑤	表層	世間	外形	感受

問10 本文の主旨として、最も適切なものを次から選べ。

10

- ① 私たちは、自分への評価に敏感であるため、自分を守る「膜」が破られることを何よりも警戒している
- ② 私たちは、他者を理解するために細心の注意を払いながら常に距離を維持している
- ③ 私たちは、「自分らしさ」を守るために、他者の様子を細かく観察し、「見えてしまう」状況を甘受している
- ④ 私たちは、外見や見かけだけではなく、その中身が大事であることから、ジーンズやシャツといった姿で就活をするこ  
とは、むしろ望ましい
- ⑤ 私たちは、外見を重要な手がかりとして他者を判断していることから、表現したい自分を上手く伝えるために自らの外  
見を整えている

問11 文中の二重傍線部⑦から⑭のカタカナ部分と同じ漢字を用いるものを次から一つ選べ。

11

⑦ チン魂歌

① 撃チンする

② チン妙な生き物

③ チン列棚に並べる

④ 無チン乗車お断り

⑤ 言い争いをチン静化させる

12

⑧ テイ触

① テイ観の境地に至る

② 条約をテイ結する

③ 自宅をテイ当に入れる

④ 官テイを訪れる

⑤ 収穫量がテイ減する

13

⑨ 欠カン

① カン呼の声を上げる

② カン当される

③ カン大な処置

④ 道路がカン没する

⑤ 円借カンを活用する

14

⑩ 過ジョウ

① 説明がジョウ長だ

② 気ジョウに振る舞う

③ 余ジョウ在庫を持つ

④ 友人に車をジョウ渡する

⑤ ジョウ文時代

15

⑪ ク使

① ク物を送る

② 悪貨は良貨をク逐する

③ 旅費をク面する

④ ク内庁に属する

⑤ 広いク裏を持つ

## 第二問

左は、平安時代の歌物語『伊勢物語』第三段及び第五段である（ただし、一部改変した）。これを読んで、後の問いに答えよ。

### 【第三段】

むかし、おとこありけり。懸想けさうじける女（注1）のもとに、ひじき（注2）もといふ物をやるとて、

思（注3）ひあらば葎むぐらの宿（注3）に寝もしなんひじき（注4）ものには袖そでをしつつも

二條にでうの后のきのまだ帝みかどにも仕（注5）うまつり給（注5）はで、ただ人（注5）にておはしましける時（注5）のこと也。

### 【第五段】

むかし、おとこありけり。東ひんがしの五條（注6）わたり（注6）にいと忍（注6）びていきけり。密みそかなる所（注6）なれば、門かどよりもえ入（注6）らで、童わらはべの踏（注6）みあけたる築地つひぢのくづれ（注6）より通（注6）ひけり。人（注6）しげくもあらねど、たびかさなりければ、あるじききつけて、その通（注6）ひ路（注6）に、夜（注6）ごとに人（注6）をすへてまもらせければ、いけどもえ逢あはで帰（注6）りけり。さて、よめる。

人知（注7）れぬわが通（注7）ひ路（注7）の関守せきもりはよひよ（注7）ごと（注7）にうちも寝（注7）ななん

とよめりければ、いといたう心（注8）やみけり。あるじゆるしてけり。

二條（注9）の后（注9）に忍（注9）びてまいりけるを、世（注9）の聞（注9）えありければ、兄せうと人（注9）たちのまもらせ給（注9）ひけるとぞ。

〔注〕

- 1 懸想じける——思いをかける、恋をする
- 2 ひじきも——ひじき。海藻
- 3 葎の宿——あばらや
- 4 ひじきもの——注2「ひじきも」と「敷物」との掛詞かけことば
- 5 築地——泥土を築き固めた土塀
- 6 世の聞えありければ——世間で噂になったので

問1 傍線部Aはどういうことか。最も適切なものを次から選べ。

- ① あばらやでこそ共に眠りたいものだ
- ② あばらやでさえも共に眠りたいものだ
- ③ あばらやで共に眠ることはしない
- ④ あばらやでしか共に眠れないのだろうか
- ⑤ あばらやだから共に眠れないのだろうか

16

問2 傍線部Bはどういうことか。最も適切なものを次から選べ。

- ① 召使としてお仕えせず、身分の低い人で
- ② 召使としてお仕えになって、貴族にもなって
- ③ 后としてお仕えにならないで、皇族でなく
- ④ 后としてお仕えなさった後で、身分が高く
- ⑤ 家来としてお仕えなさらず、身分が定まらず

17

問3 傍線部Cはどういうことか。最も適切なものを次から選べ。

18

- ① 誰にも知られていない場所なので
- ② 人の数の少ない場所なので
- ③ 人に知られたくない場所なので
- ④ 特別な人しか入れない場所なので
- ⑤ 大勢の人が集まっている場所なので

問4 傍線部Dはどういうことか。最も適切なものを次から選べ。

19

- ① 入ろうともしないで
- ② 入ることができなくて
- ③ 一人で入り込んで
- ④ こっそり入り込んで
- ⑤ 容易に入り込んで

問5 傍線部Eはどういうことか。最も適切なものを次から選べ。

20

- ① 人に言ったわけでもないのに、おとこの通うことが知られたので
- ② 人の往来が多いわけでもなかったが、次第に人通りが多くなって
- ③ 人の出入りが多いわけでもないが、おとこが何度も通ったので
- ④ 人によく知られているわけではないが、おとこの姿が何度も見られたので
- ⑤ 人がもともと多かったのに、さらに人数が増えて

問6 傍線部Fはどういうことか。最も適切なものを次から選べ。

21

- ① 人を集めて見物させたので
- ② 人を集めて守護させたので
- ③ 人を置いて観察させたので
- ④ 人を置いて大切にさせたので
- ⑤ 人を置いて見張らせたので

問7 波線部①と②の主格はそれぞれ誰か。その組み合わせとして、最も適切なものを次から選べ。

22

- ① ① おとこ ② あるじ
- ② ① おとこ ③ 女
- ③ ① あるじ ④ 女
- ④ ① 二條の後 ⑤ あるじ
- ⑤ ① 兄人たち ② 世間の人々

問8 傍線部Gの文法的説明として、最も適切なものはどれか。次から選べ。

23

- ① ア行下二段活用の動詞「得る」の語幹＋八行下一段活用の動詞「逢ふ」の未然形＋原因の接続詞「で」
- ② ア行下二段活用の動詞「得る」の未然形＋八行四段活用の「逢ふ」の連用形＋原因の接続詞「で」
- ③ 八行四段活用の動詞「え逢ふ」の連用形＋打消しの助動詞「ず」の連体形
- ④ 陳述の副詞「え」＋八行四段活用の動詞「逢ふ」の未然形＋打消の接続助詞「で」
- ⑤ 陳述の副詞「え」＋ア行四段活用の動詞「逢ふ」の已然形＋打消の接続助詞「で」

問9 傍線部Hはどのようなことか。最も適切なものを次から選べ。

24

① 眠ろうとしないであろう

② 大変よく眠るはずだ

③ ちっとも眠れないだろう

④ 少しでも眠ってはならない

⑤ 少しでも眠ってしまっても欲しい

問10 傍線部Iはどのようなことか。最も適切なものを次から選べ。

25

① 行き過ぎていた主人の行いを、おとこが許した

② 歌を受け取った二條の后が、主人の言動を許した

③ 二人の思いに心を打たれた主人が、二人が会うのを許した

④ 女にせがまれた主人が、二人が会うのを許した

⑤ 兄人たちの行動に感心して、主人が兄人たちの行いを許した